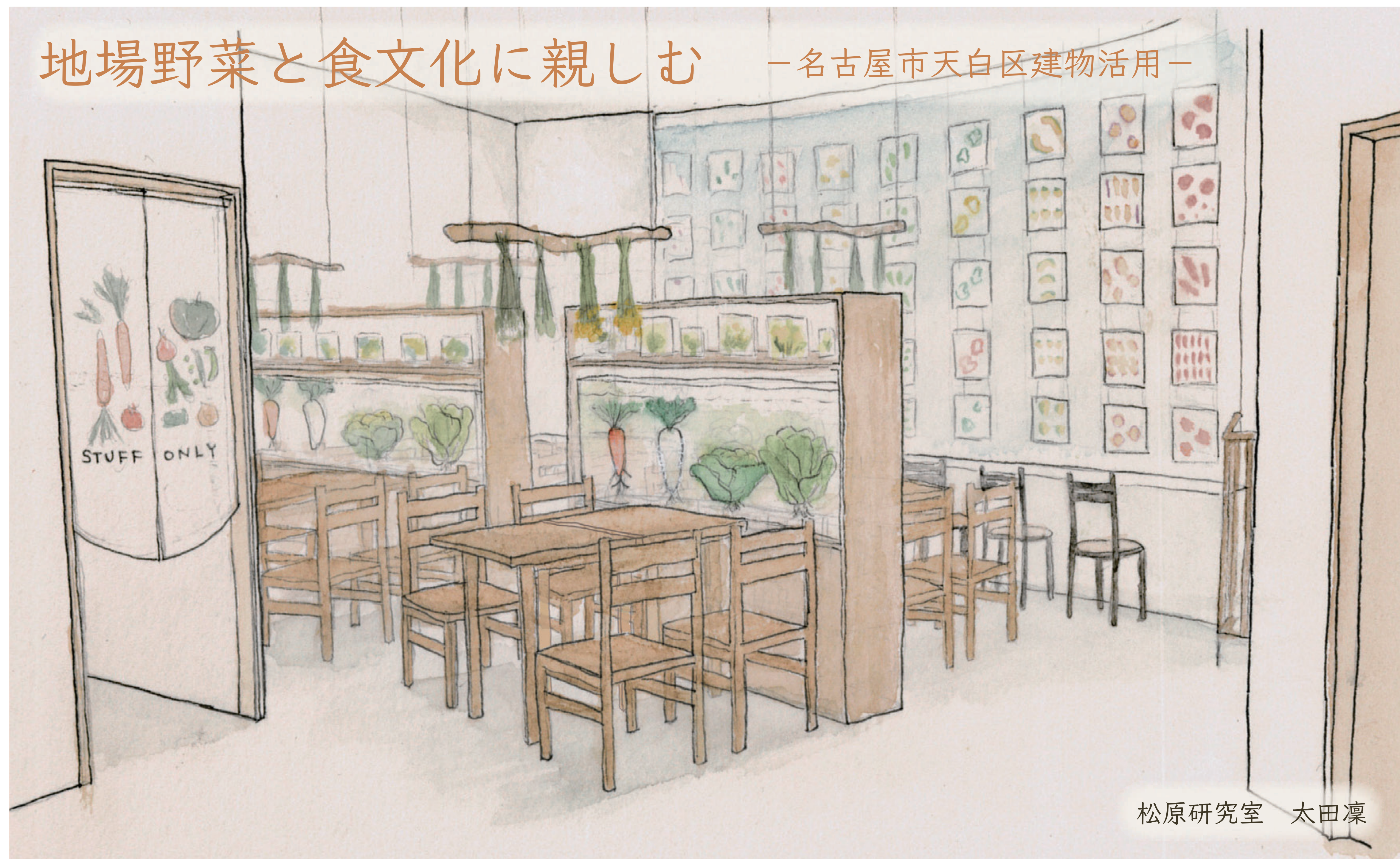


地場野菜と食文化に親しむ

ー名古屋市天白区建物活用ー

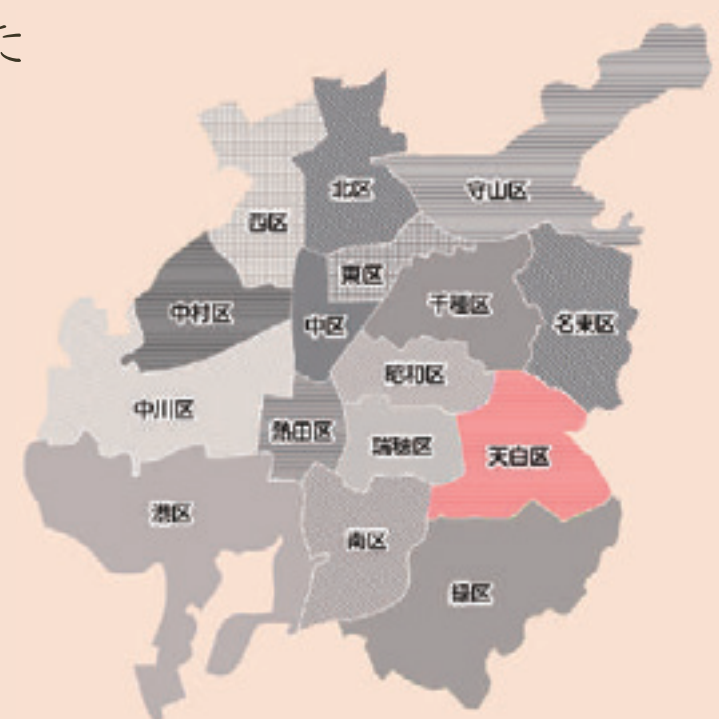


松原研究室 太田凜

背景

名古屋市天白区について

名古屋の中では一番新しい区
天白川や相生山緑地、荒池緑地、天白公園など自然がたくさんで大学も多数ある
のどかな農村地域だった
→ 集合住宅が立ち並び
住宅地域へ



統計から見る天白区

人口 163,148 人 (16 区中 7 位)
面積 21.58km² (16 区中 5 位)
→平均的な規模の区

0～14 歳の割合は 13% (16 区中 4 位)
区の平均年齢は 43.6 歳 (16 区中 3 位)
出生数は 1468 人 (16 区中 5 位)
人口は現在も増加傾向にある

農の現状

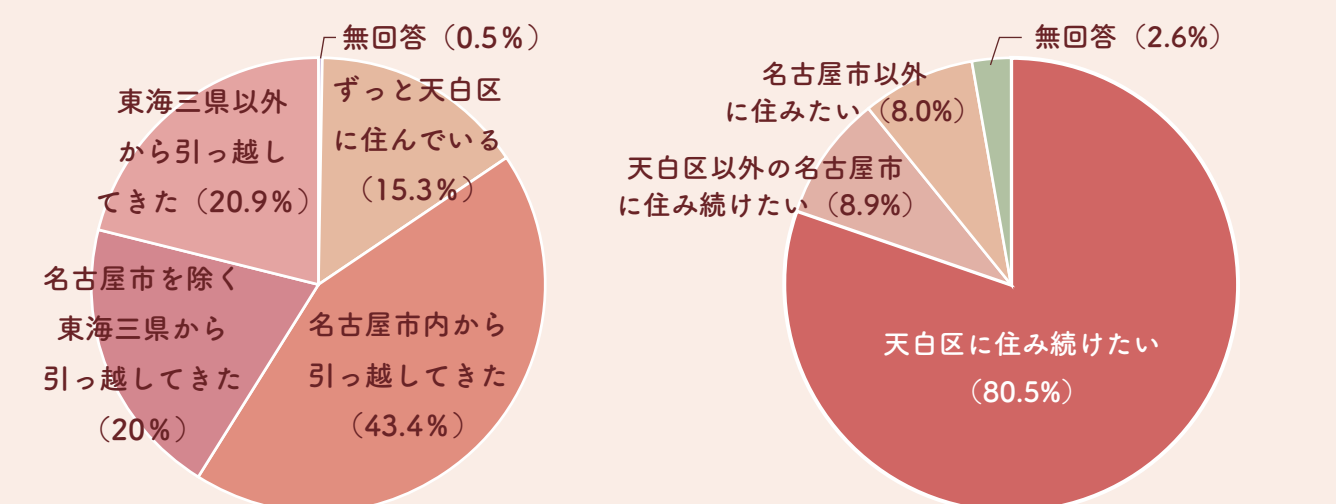
かつては広大な農地を抱える地域
農家世帯数、農地面積ともに減少中だが、
16 区中 4 番目に多い

特産野菜と新野菜

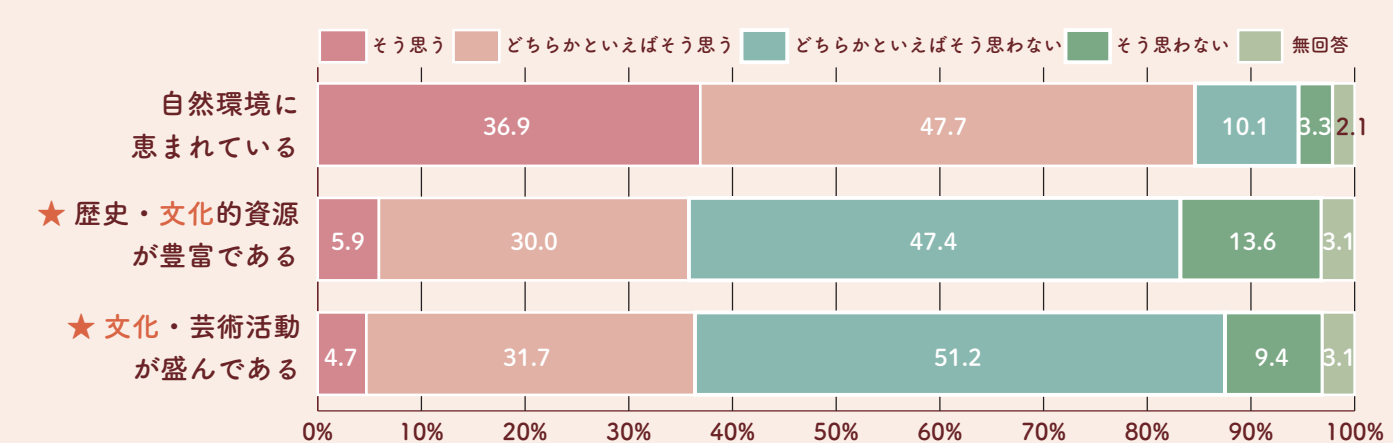
八事五寸ニンジン：大正時代から愛知の伝統野菜
くりあじかぼちゃ：栗の実を逆さにしたような
尖ったカボチャ
セイロン瓜：新野菜。健康野菜スリランカの野菜

区民アンケート

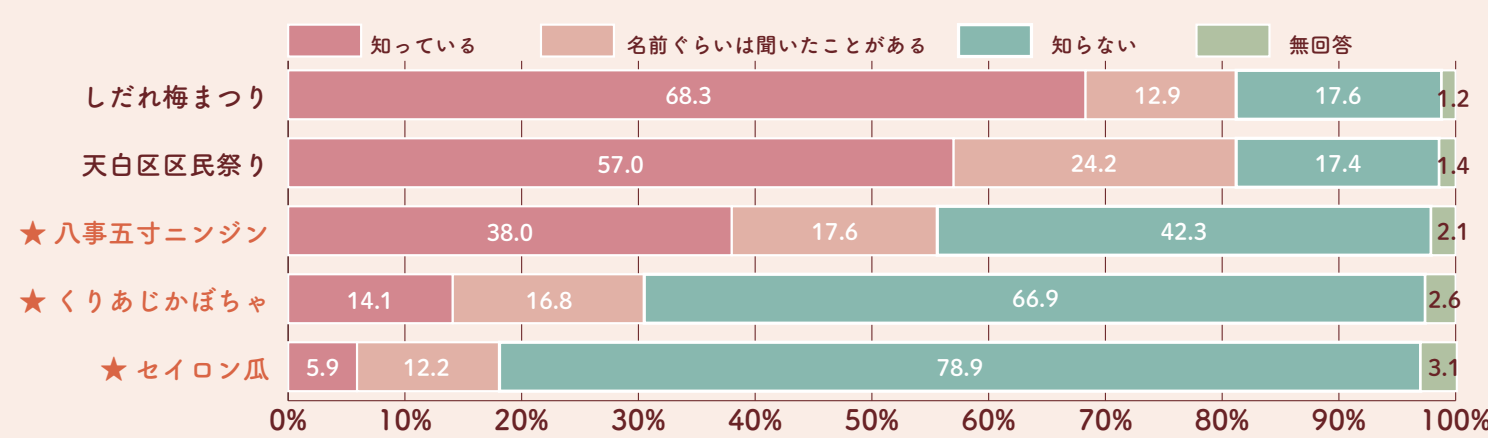
ずっと住み続けている人よりも引っ越してきた人が多い。
住み続けたいと答えたのは 8 割を超える。



質問：天白区について感じていること
自然環境に恵まれていると思う人が非常に多い
のに対して、文化的資源や活動があるといった、
文化に関する項目は非常に低い。



質問：天白区についてどのくらい知っているか
地域のお祭りは知っている人が多いのに対して、
天白区の特産野菜や新野菜について知っている人は少ない。



自然が多く、若い人の多い天白区は、住み続けたい人が多数だが、
天白の食文化について知っている人は少なく、
魅力が伝わっていない！

設計のねらい

・天白の古くから続いている農業や特産野菜などの食文化を広め、地域住民がもっと自慢できる街にする

・地場野菜を食べられる機会や場を増やす

・かつて農村地域であった天白の農家をこれ以上減らさないように、「農」を身近に感じてもらう

➡今は使われていない空き家や空きビルの活用

アンケート調査

設計の試案を作成して、利用が想定される年代の人を対象に設計案に対するアンケート調査を行った。これらの結果を参考にして設計を進めた。

①子ども向け食堂

対象者：利用する空き室の向かいの学童保育「TELACO 原校」に通う小学生 18 人

提案の子供向け食堂に行ってみたい 89%

野菜が栽培できる食堂に興味がある 89%

野菜が食べられる食堂に興味がある 100%などであった。

設計提案については、食事以外でも楽しめると良いという意見があった。

②地場野菜を味わうカフェ

対象者：30 ～ 50 代前後の男女 24 人

野菜の育ち方に興味がある 63%

地場野菜に興味がある 71%

地場野菜を食べられるカフェに行きたい 96%

野菜について知れるカフェに行きたい 92%などであった。

設計提案については、ポイントを貯めて農業体験ができるようにするという意見があった。

③畑付きシェアハウス

対象者：大学生 25 人

シェアハウス内で交流したい 72%、

野菜栽培に興味がある 80%、

野菜が好き 92%、

提案の畑付きシェアハウスに入居したい 56% などであった。

設計提案については、畑に柵を、玄関前に植物があると良いという意見があった。

3つの対象建物

天白区全体に食文化を広めるため、天白区に分散した

3つの対象建物を利用する

① 原駅の直結の駅ビル

②八事駅、イオンの近く

③ 東山動植物園や多数の大学の近く



利用方法

①子ども向け食堂

テーマ：「ふれあう」

ターゲット：小学生～中学生

・野菜が育つ様子が分かり、ふれあうことができる空間

・子ども一人でも安心して入れる

・地元住民なども運営に参加し、アットホームな食堂

・利用者には後片付けやお皿洗いをしてもらう

・地元農家の不揃いな野菜などを使い、安めの価格設定にする

③畑付きシェアハウス

テーマ：「体験する」

ターゲット：大学生

・隣の畑を借りて、地場野菜を育てる

・農業活動に必要な道具を貸出しする

②地場野菜を味わうカフェ

テーマ：「味わう」

ターゲット：30 ～ 50 代前後

・野菜たっぷりのメニューで、天白の地場野菜を知ってもらう

・野菜についての知識を学べる場とする

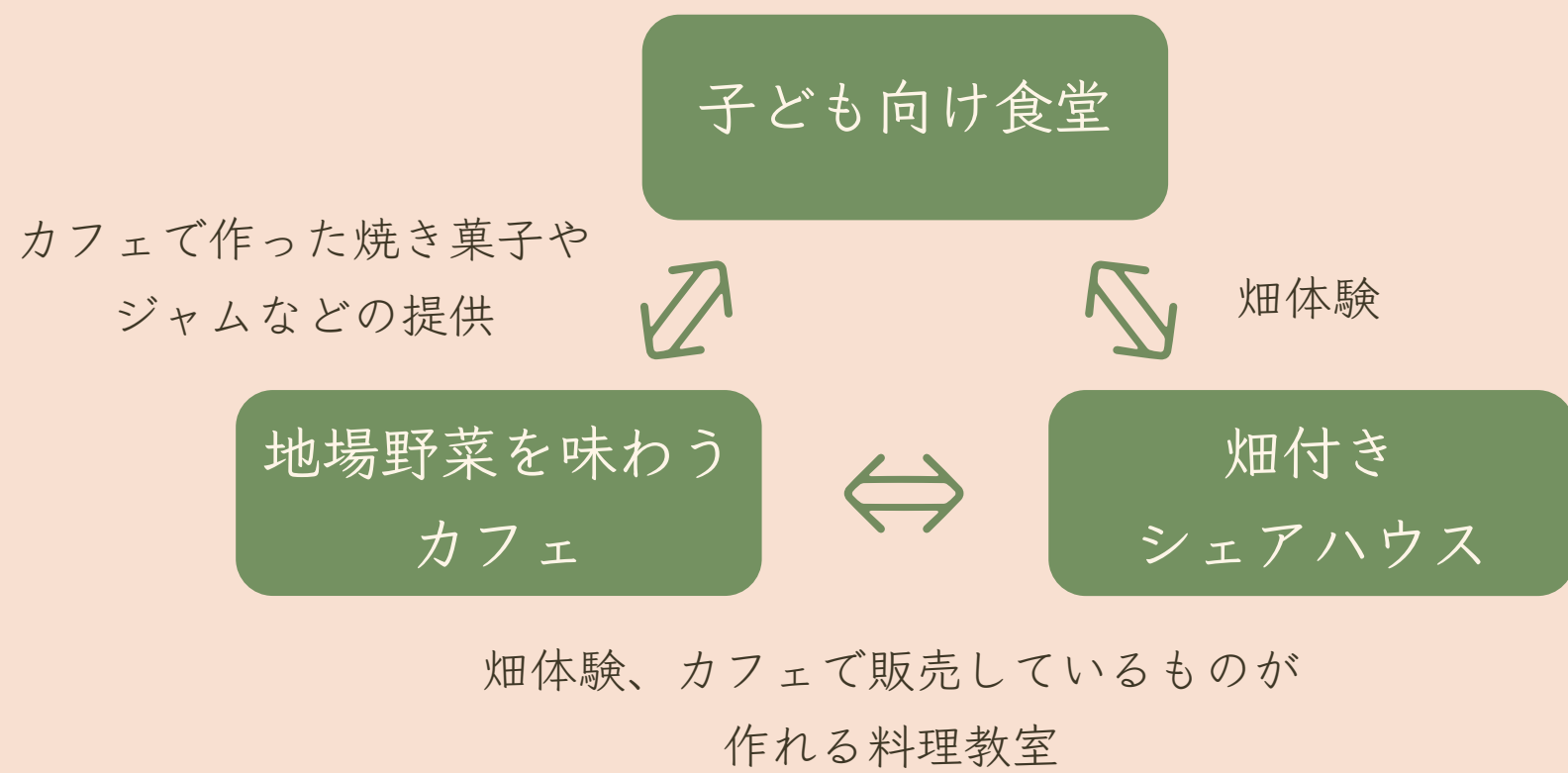
・静かで上質な雰囲気

・ゆったりできる空間

・ジャムなどテイクアウトできるものも売る

3つの設計提案と連携

それぞれが連携して畑体験や料理教室ができるようにする。



対象建物

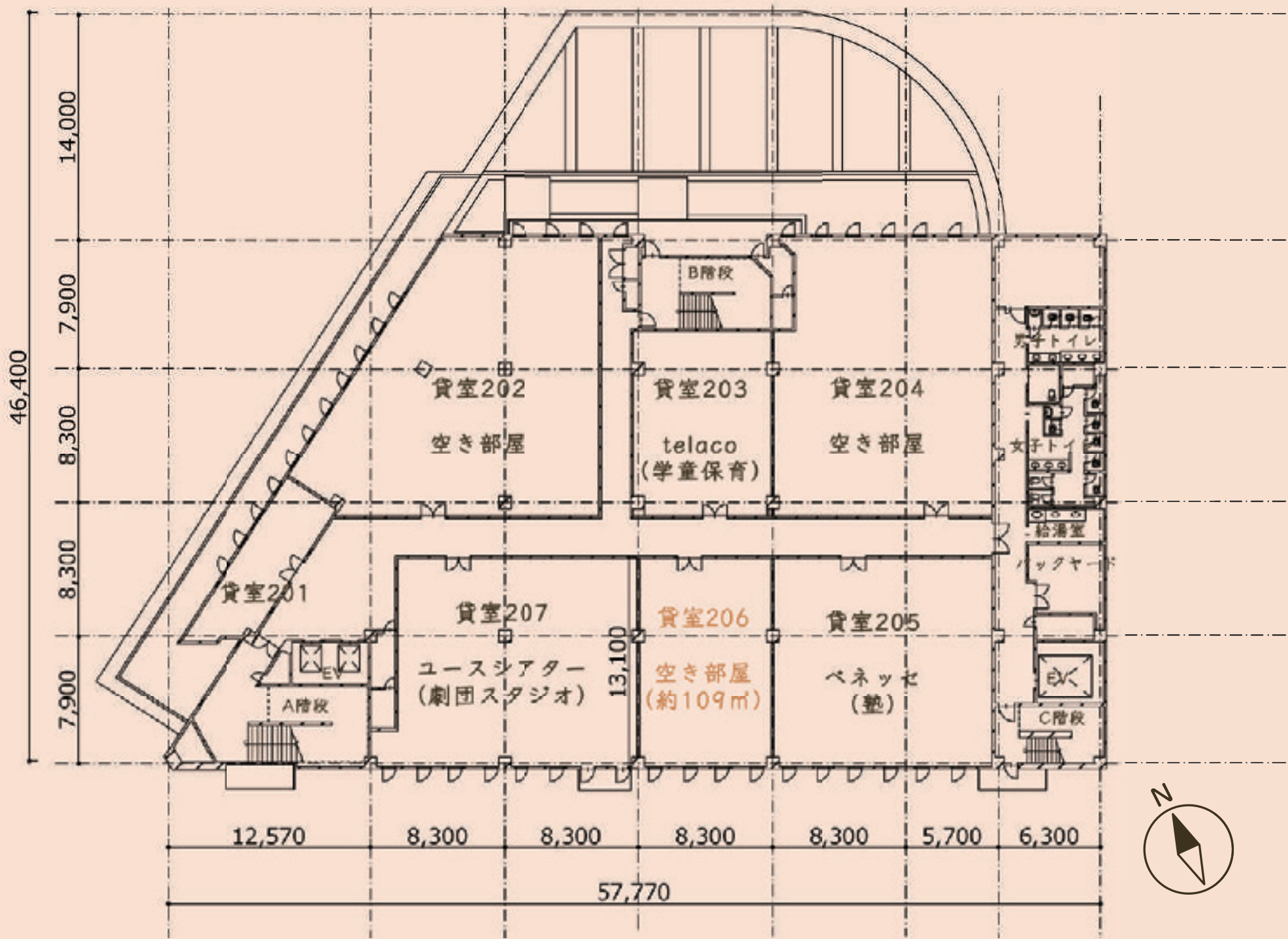
①子ども向け食堂

場所：原駅直結ビル 2 階 206 室
構造：RC 造 5 階建て
面積：109.44㎡
天井高：約 3,300mm
築年月：1997 年 3 月（築 24 年）

周囲に学童保育や塾があり、小劇場でも子供向けのコンサートや体験教室が行われる



駅ビル 2 階現状平面図 1/300

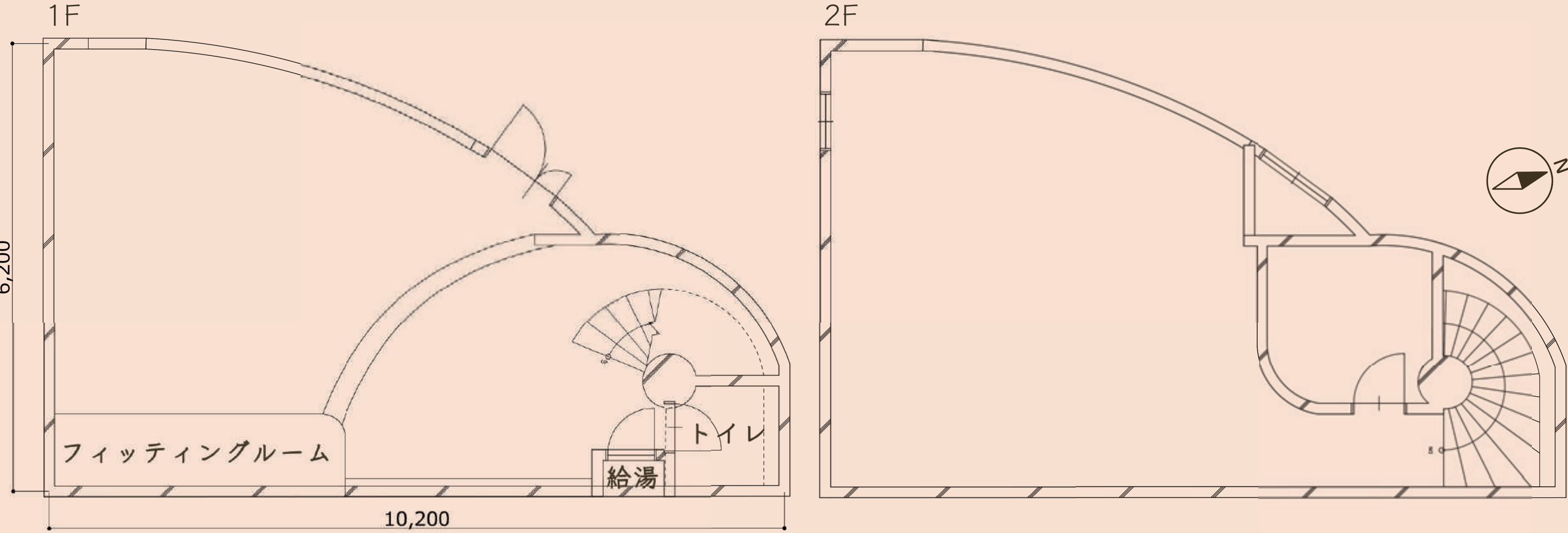


②地場野菜を味わうカフェ

場所：八事駅徒歩 7 分
構造：鉄骨 2 階建て
面積：約 200㎡
天井高：約 3,300mm
築年月：1986 年 1 月（築 35 年）
周囲はワイン専門店、懐石料理屋が並ぶ



現状平面図 1/50

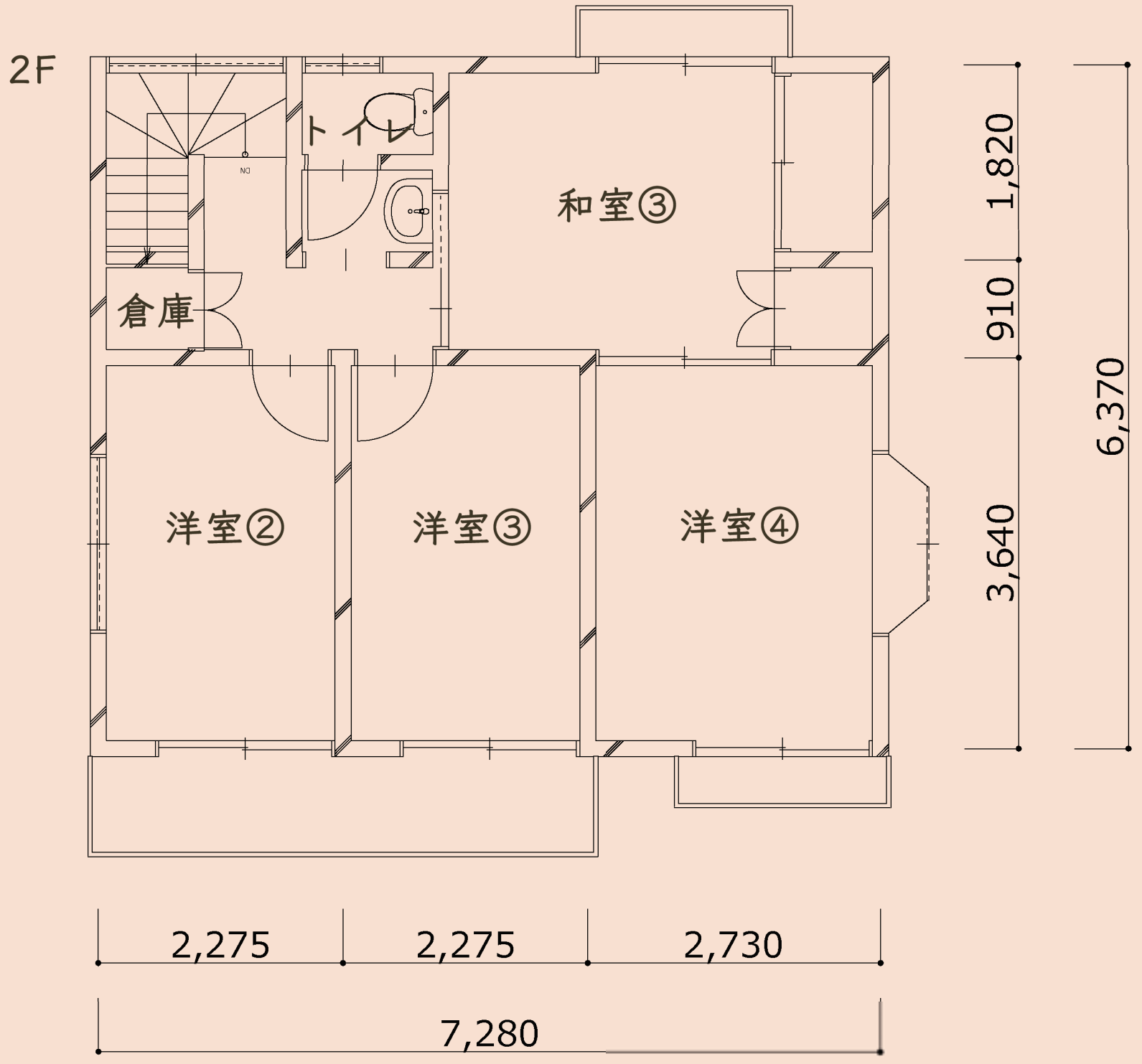
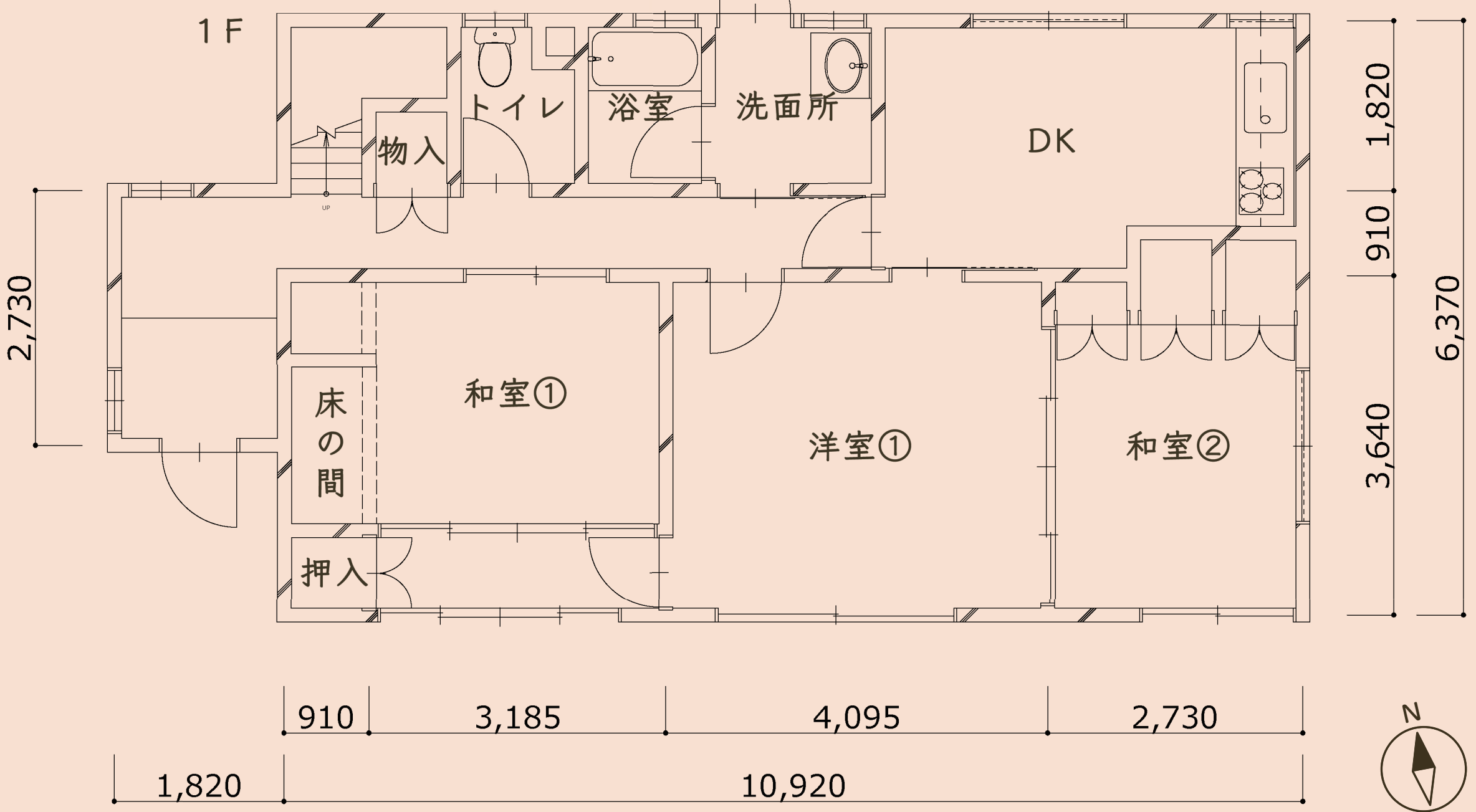


③畑付きシェアハウス

場所： 東山動植物園徒歩 10 分
構造：軽量鉄骨 2 階建て
建物面積：148.16㎡
天井高：2,400mm
築年月：1980 年 4 月（築 41 年）
周囲には多数の大学がある

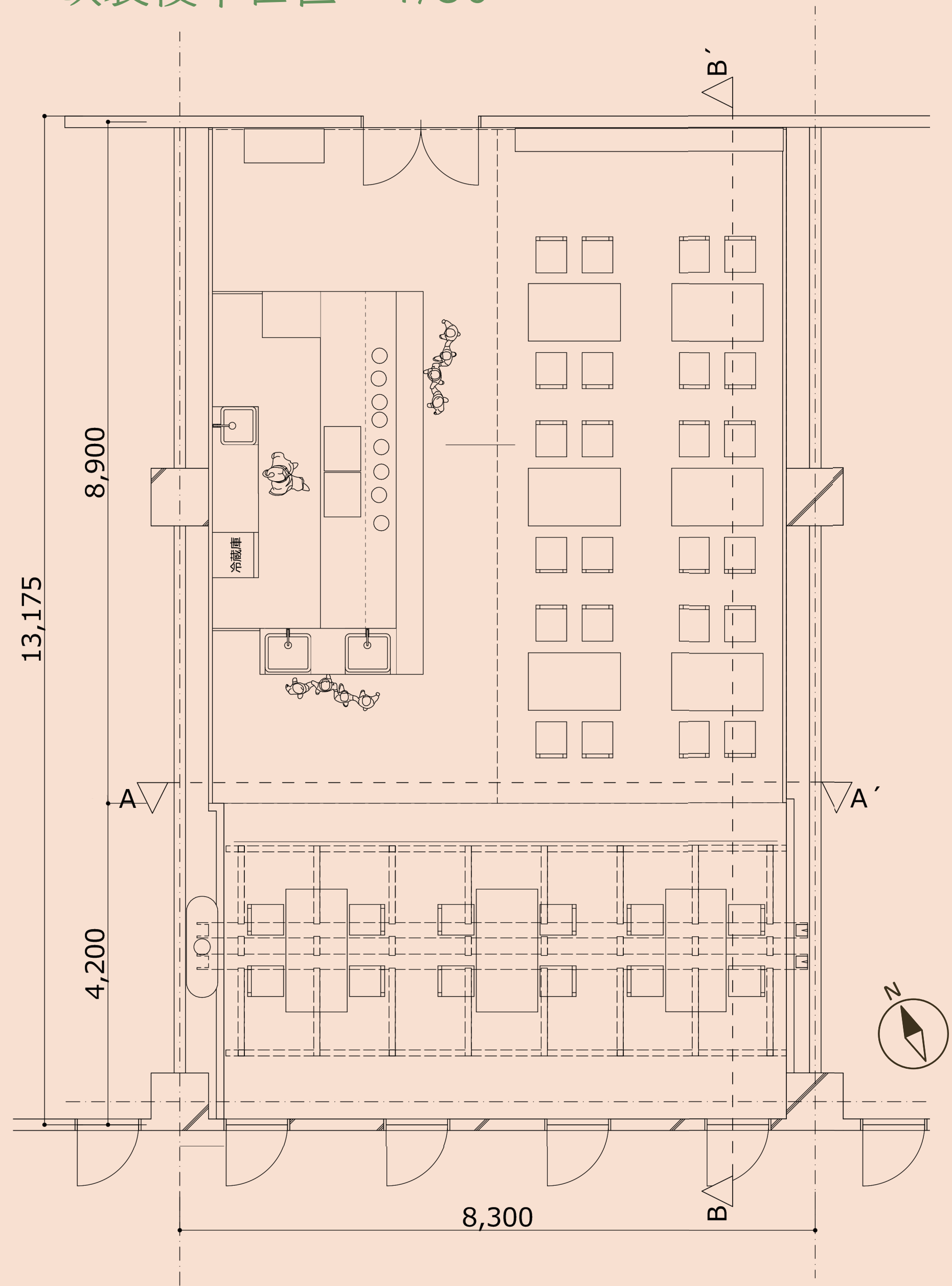


現状平面図 1/50

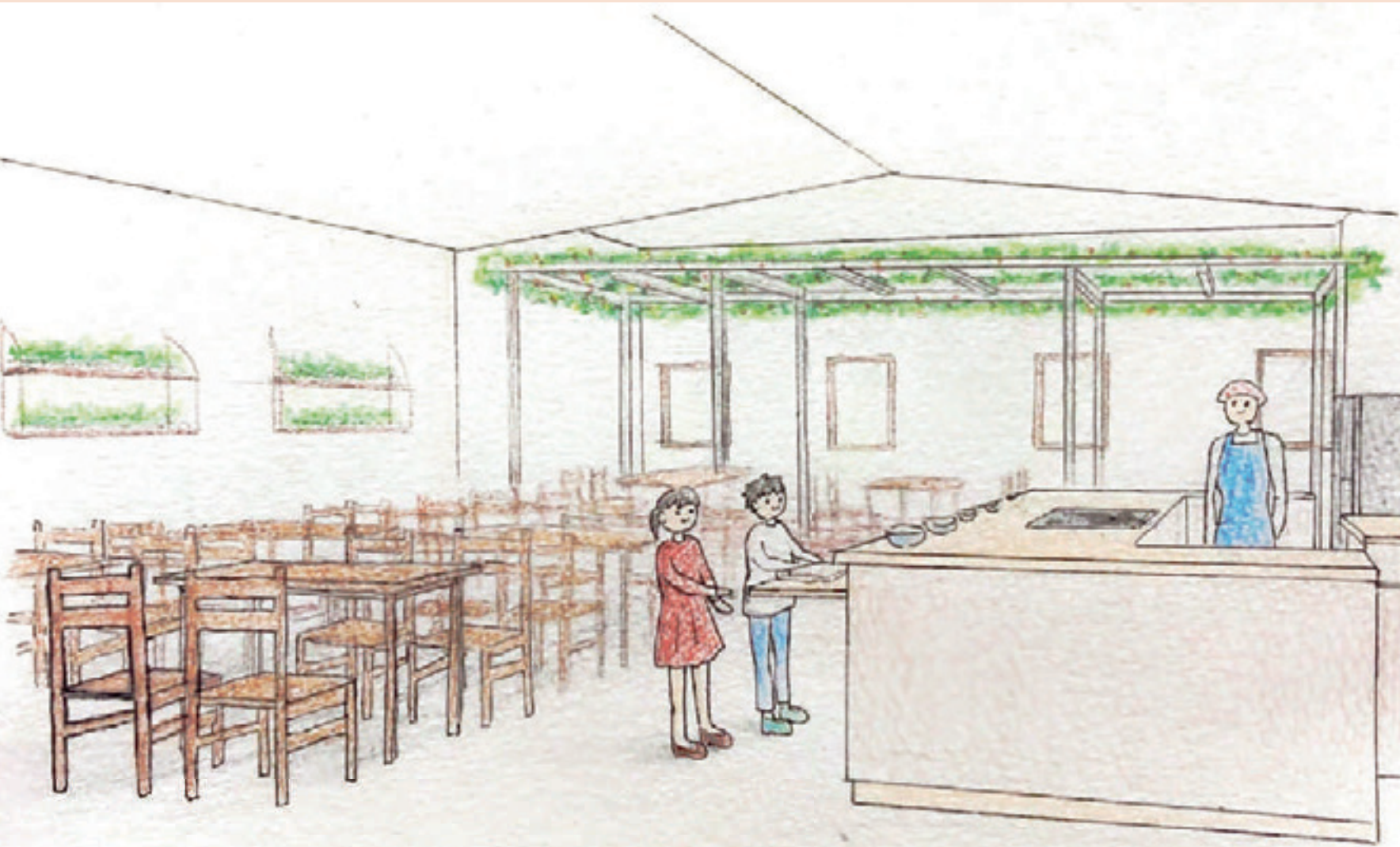


子ども向け食堂

改装後平面図 1/50

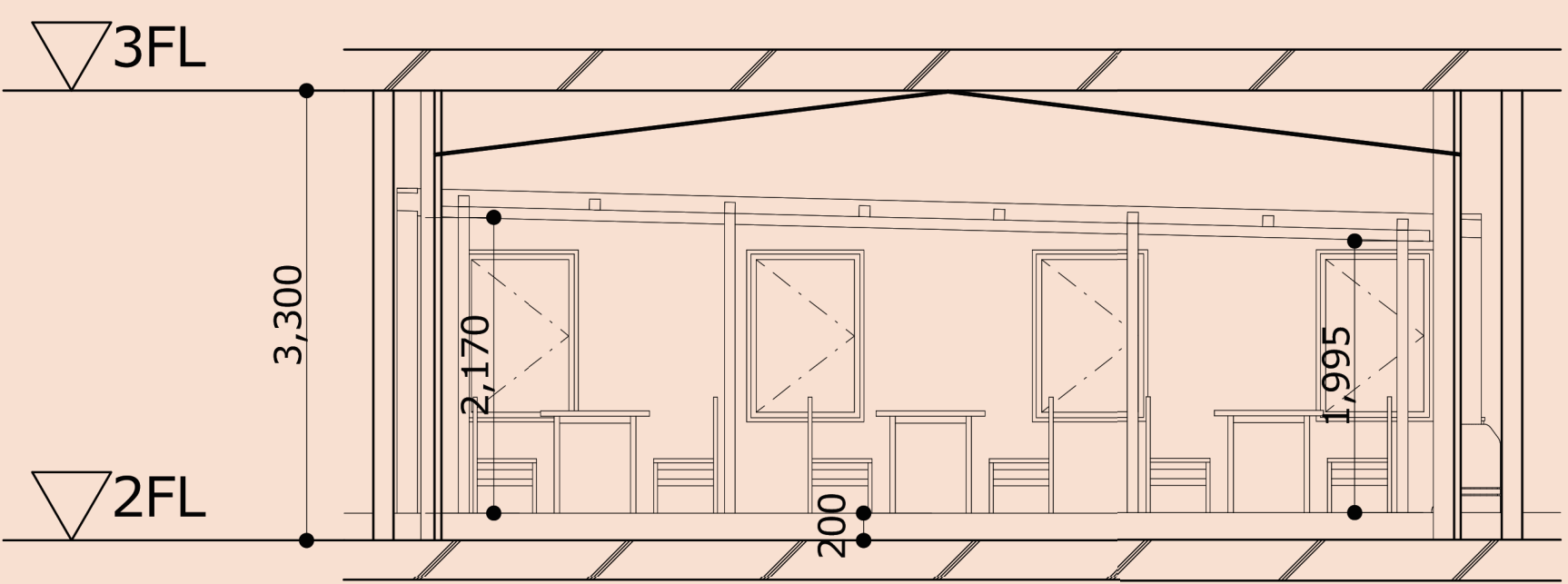


パース



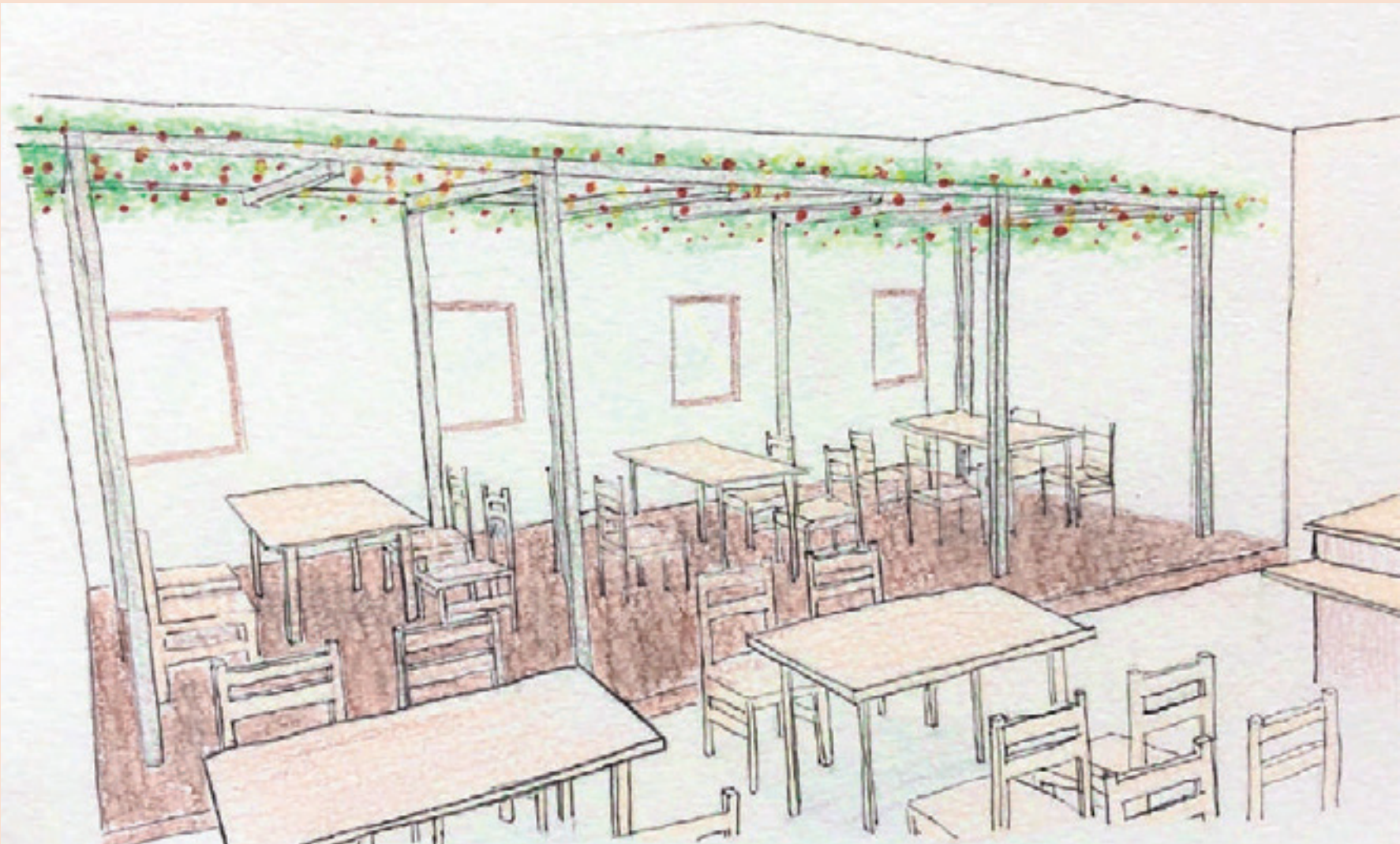
入り口から見た景色

改装後 A-A' 断面図 1/50

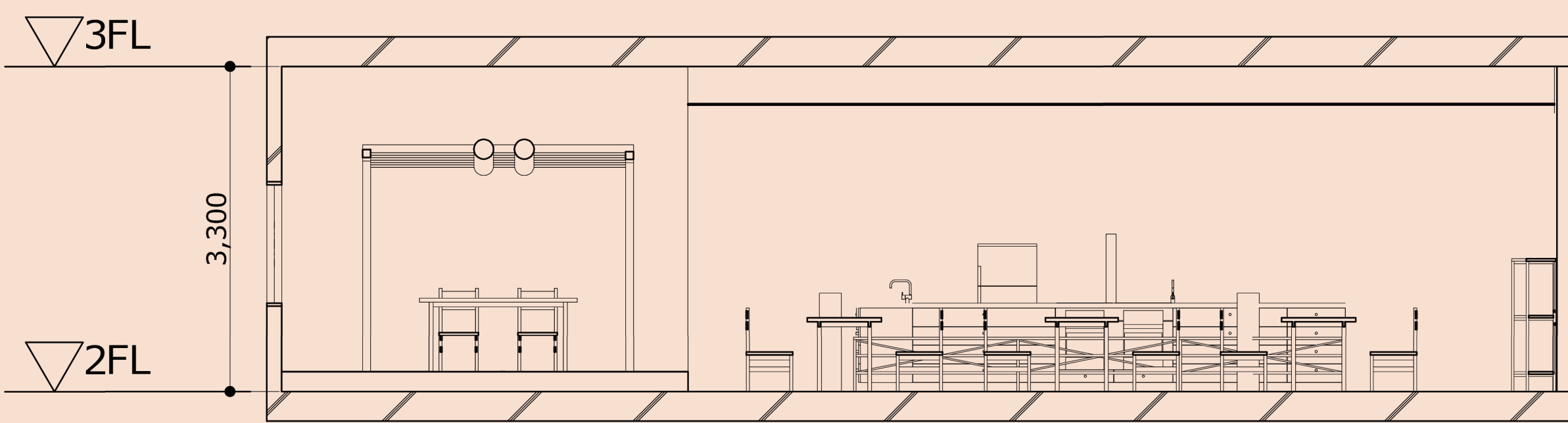


入り口から見た景色。目の前はオープンキッチンとなり、店員が子どもたちを温かく迎え入れる。温室をイメージしており、とても明るい空間となっている。半透明の壁と天井の裏に照明を設置し、壁・天井全体から柔らかい光がそっと注がれる。

頭上の水耕栽培



改装後 B-B' 断面図 1/50



南側座席の上部に、パイプを使った水耕栽培装置を設置し、野菜が育つ様子を見ながら食事ができるようにする。育った野菜は食堂で出す料理に使い、収穫体験の場としても使う。



入り口付近に本棚を設置し、いろいろな絵本などを寄付してもらい、子どもたちが自由に読めるようにする。東側の壁にもプランターを設置し、野菜が育つ様子を見ながら食事ができる。

店名、ロゴ

ふれあい食堂
のふき

子、新芽を優しく見守るような温かい空間を表している。

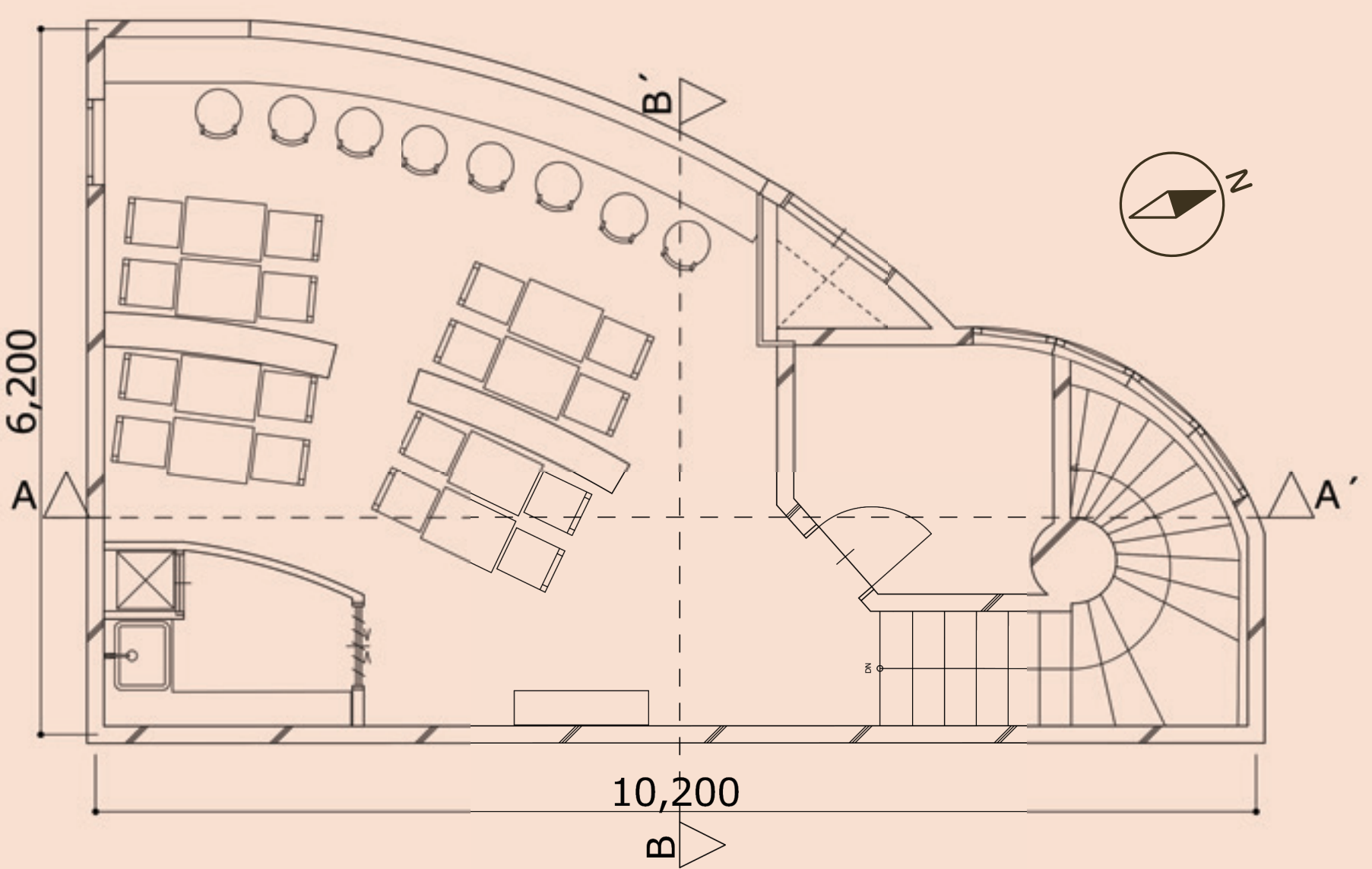
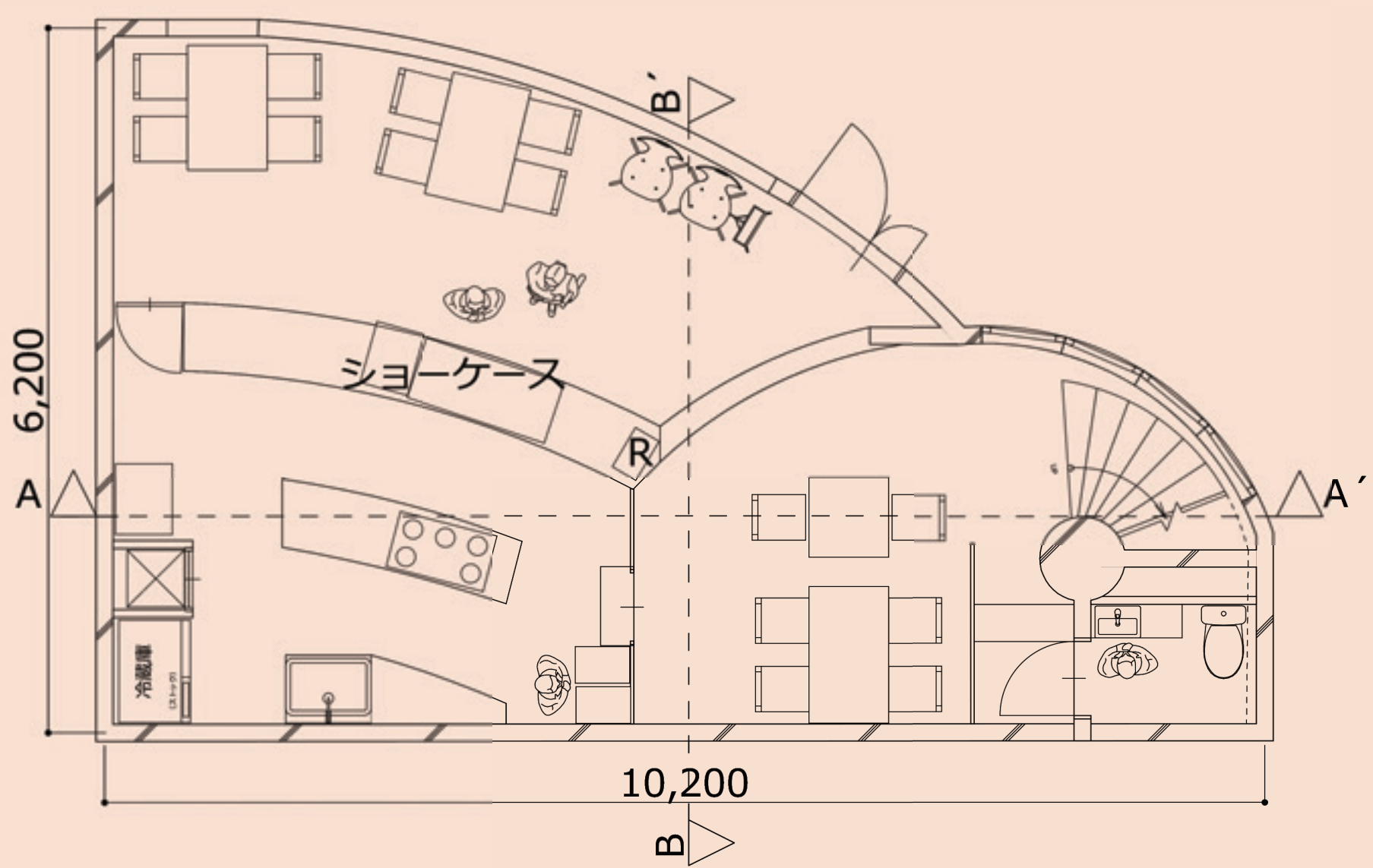
「ふれあい食堂 めぶき」
新芽が出て育っていく様子や、子どもたちがご飯を食べて育っていく様子、新芽を優しく見守るような温かい空間を表している。

メニュー

地場野菜をたっぷり使った、健康的で家庭的な料理

地場野菜を味わうカフェ

改装後平面図 1/50



一階には、地場野菜が入った冷蔵ショーケースがあり、そこから地場野菜だけの購入もできる。既存建物の曲線を生かしたキッチンとした。



二階のカウンター席前の窓際には、野菜の様々な断面がわかる押し野菜を吊るす。押し野菜とは、切った野菜を押し花のように平面状に乾燥させたもの。UV

パース

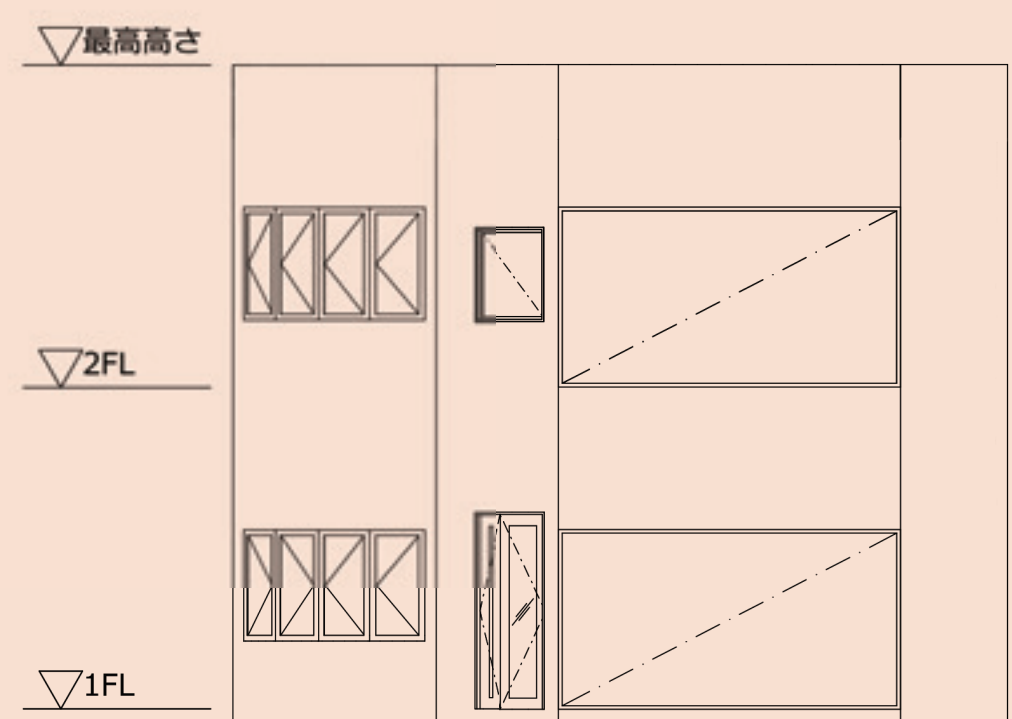


1 階 ショーケース

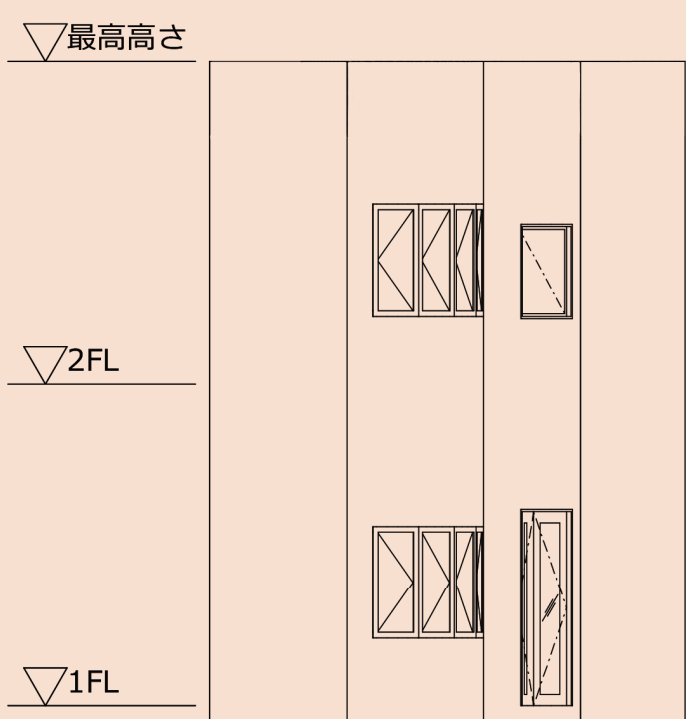


2 階席

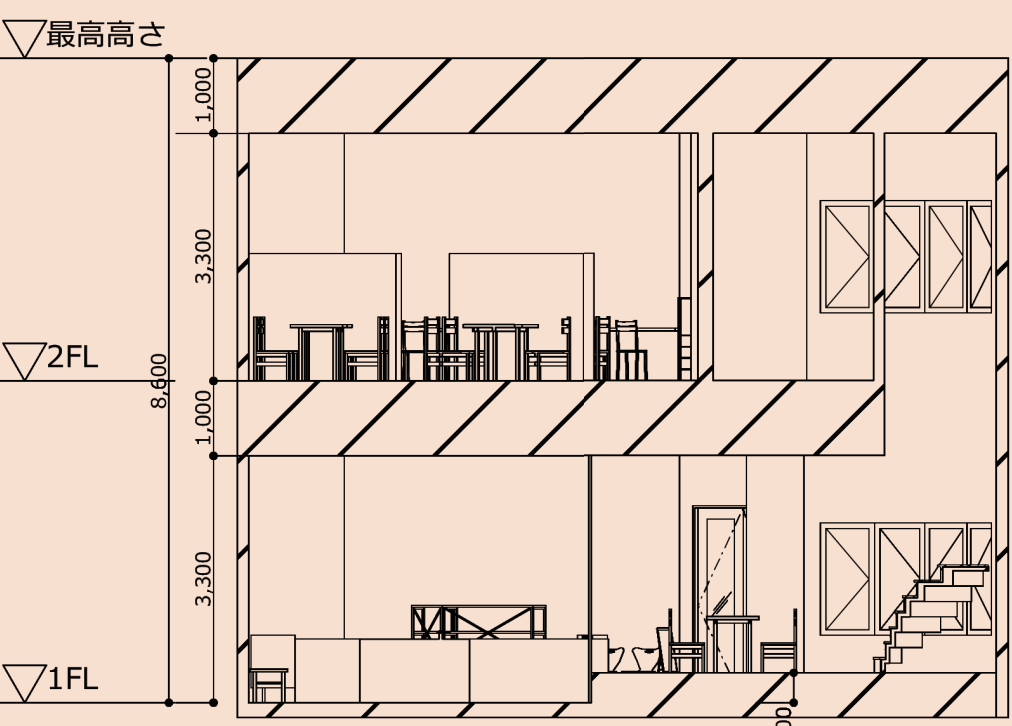
西側立面図 1/100



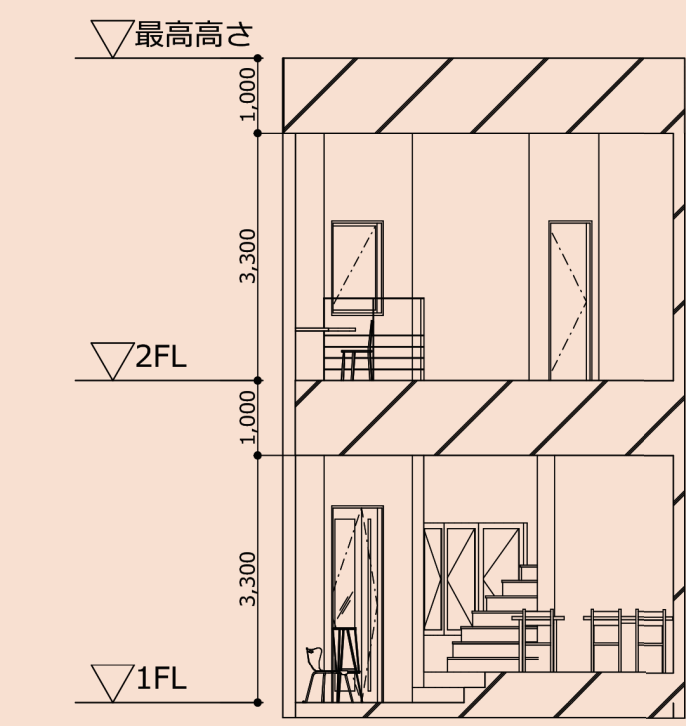
北側立面図 1/100



A-A' 断面図 1/100



B-B' 断面図 1/100

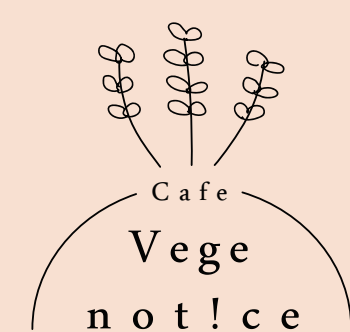


模型写真

外観



店名、ロゴ



「Cafe Vege notice」
notice はラテン語で気づく、目にとめるという意味。普段見ている野菜や地場野菜の、新しい気づきを得られるカフェという意味。

メニュー

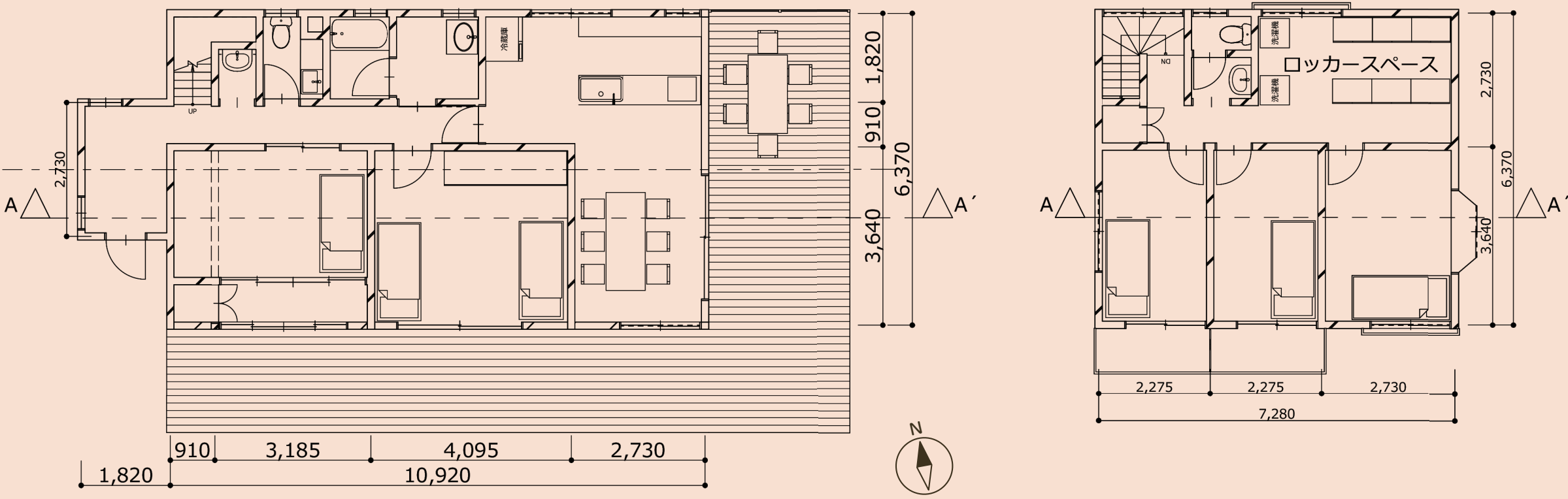
ランチやデザートなど、定番メニューから意外性のあるものまで、素材の味を生かした料理



二階座席横の棚には、野菜の長期間保存が可能な塩水を入れた水槽を設け、根っこや葉がついたままの旬の野菜を展示し、本来の野菜の姿が見えるようにする。座席上部には、展示してある野菜のドライフラワーを吊るす。

畑付きシェアハウス

改装後平面図 1/100



隣接地を含む配置図兼平面図 1/200



模型写真



外観

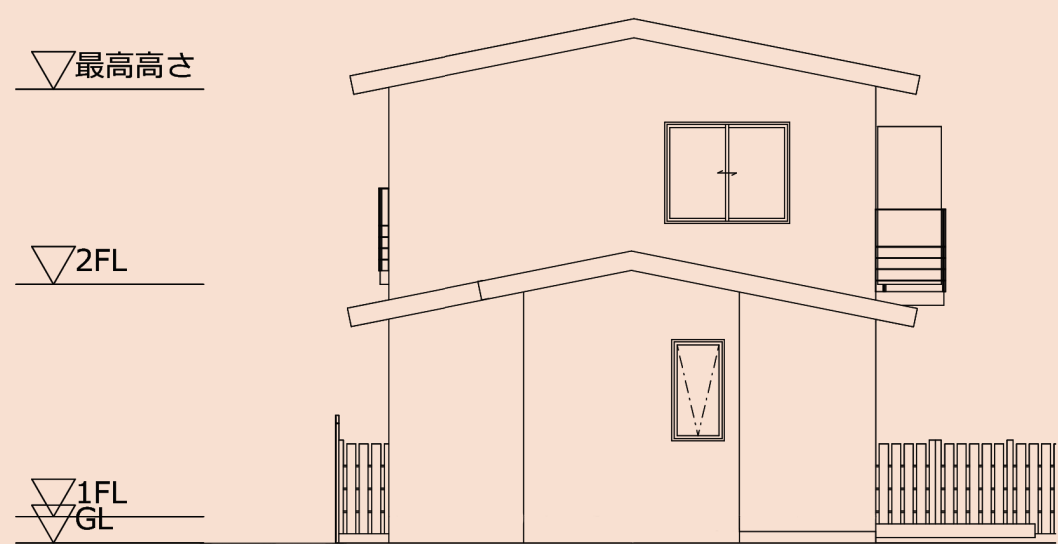
東側立面図 1/100



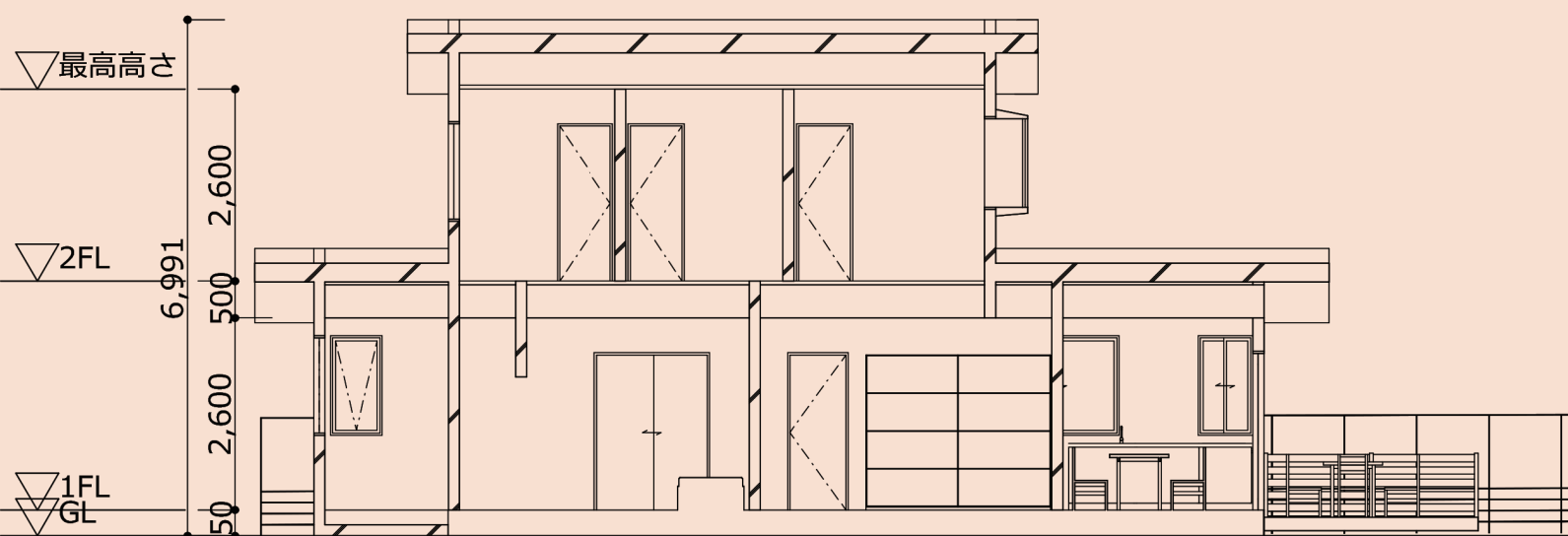
南側立面図 1/100



西側立面図 1/100



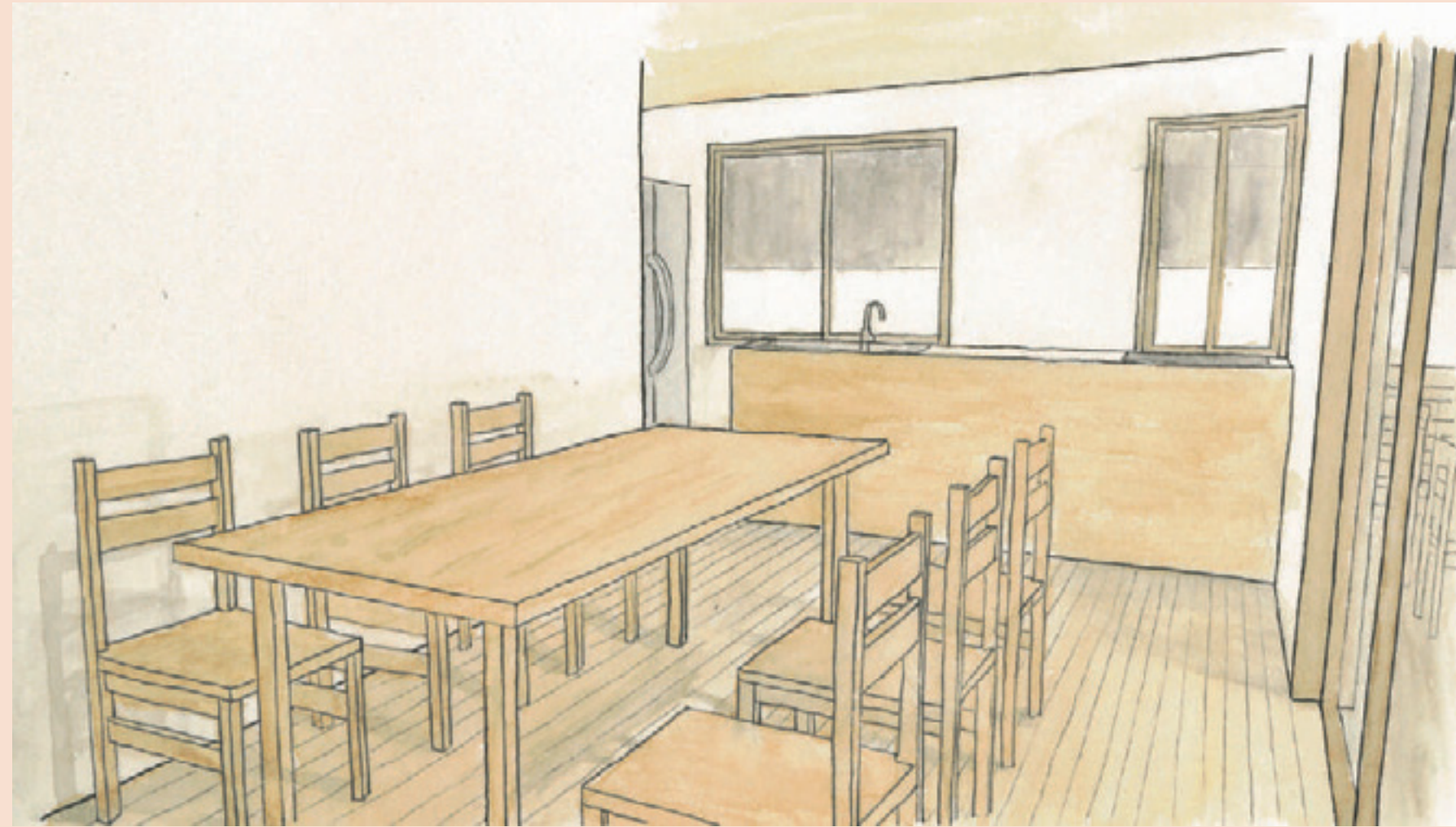
A-A' 断面図 1/100



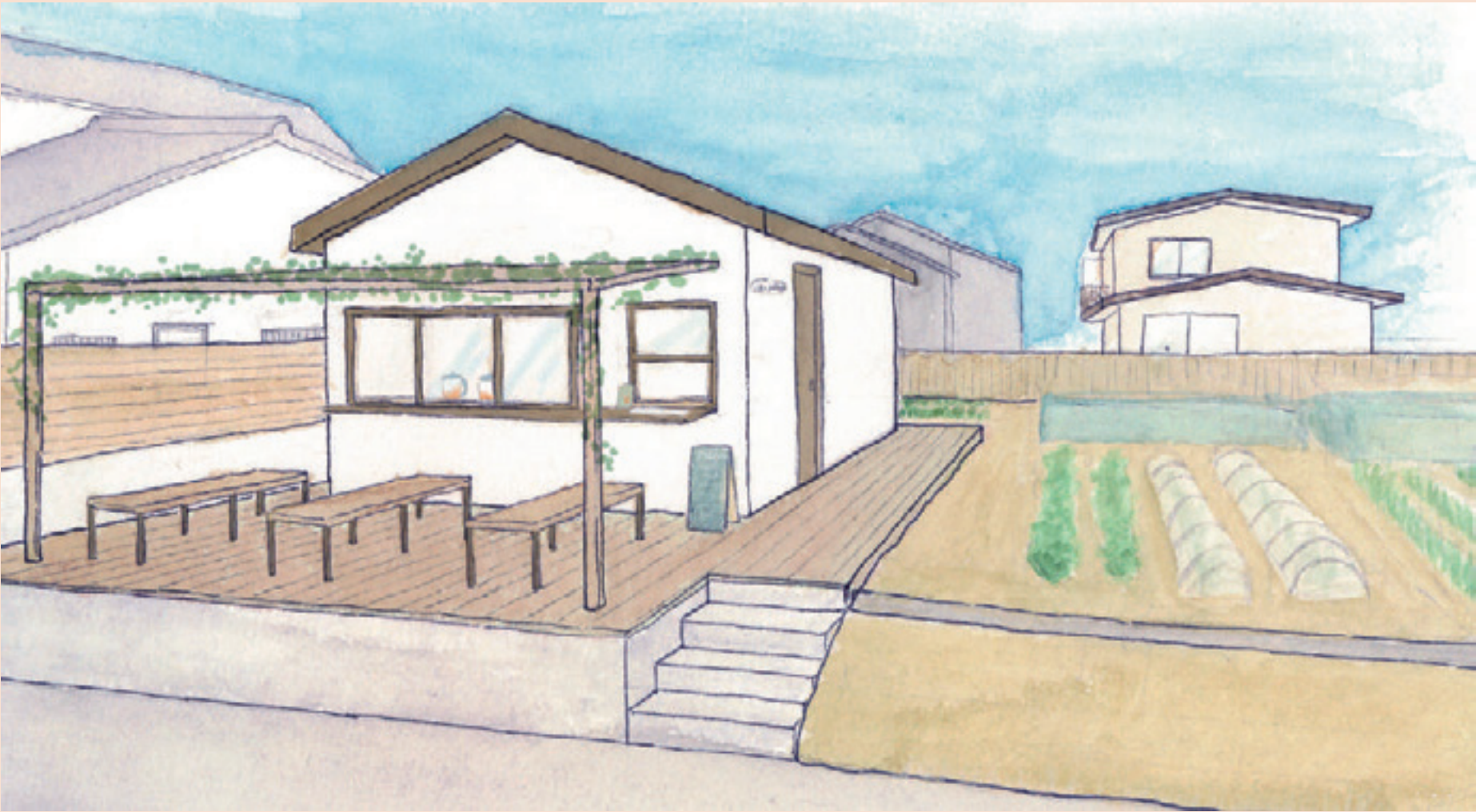
1階のダイニングキッチンと南隣りの部屋をひとつにし、広々とした空間へと改装した。ここでは野菜を使った料理教室を開くことができ、他の2つの設計提案と連携して生徒を募集する。また、インテリアは、落ち着いた雰囲気となるよう天然素材を多用したものにし、入居者の好みに合わせやすいものとする。

パース

ダイニングキッチン



ジューススタンド



畑には、ジューススタンドを設置し、育てた野菜を使ったジュースを販売する。

ジューススタンド
店名、ロゴ



「iki juice」
「生き」ている
ような新鮮な
野菜をジュースで手軽に飲んで「生き生き」という意味を込めている。

メニュー

野菜メインのジュース、スムージー